

# 九大病院だより

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

希望を胸に若い研修医の教育が九州大学病院で始まりました。

6年間の医学教育を受けて医師免許を取得した医師が2年間、診察経験を積むために、病院等で実際の診療にたずさわり、“医の心と技術”を学ぶもの。これまでのように医局に入って研修するのはと違い、この4月からスタートした新しい医師になるための義務制度。

本院には102人の研修医が入り、福岡、大分、宮崎、佐賀、長崎、山口、広島、愛知の8県にある26研修協力病院に54人、本院に48人が内科、外科をはじめ各診療科を一定期間回って医療の研鑽を積むことになっており、研修医には先輩の指導医が付きっきりで指導に当たっています。2年間で本院と協力病院を交替で回り、一通りの医療を勉強したあと、自分がなりたい専門医コースに進みます。大学病院は診療、研究、教育の三つが柱で、水田祥代院長は「大学病院の使命の一つは人材育成で、病気に闘志を燃やし、患者さんには愛情をもつプロフェッショナルな医師を育てたい」と言っています。

患者のみなさんのところにも研修医が姿を見せますので、家族のみなさんともども暖かいご支援をお願い致します。

## 医の心と技術を学ぶ

「始まった研修医教育」



● 腰椎穿刺について指導しているところです。



## コラム

### 新研修医制度と九大病院

大学法人化の直前の2年間九大病院長を担当させていただきました。3病院の統合と新病院2期棟建築、管理会計の構築（赤字解消）、安全管理の徹底、外部資金獲得のための臨床研究センター、先端医療（先端医工学、遺伝子細胞治療）、新研修医の皆さんのための研修センターなどのスタート、CCC構想（緊急ICUを含めた病院を一体化して運営する）の具現化に向けて、更にそれに加え複数の大きな学会を併せて進め、極めて慌ただしい2年間でしたが、当時の執行部、診療科長と診療科、コメディカル、事務部の皆様方のお力により、大過なく進めさせていただきました事を、心より感謝申し上げます。

新病院長のもとでの今後の発展を心よりお祈り致します。

### なわた はじめ 第三内科教授 名和田 新

MESSAGE from Hajime Nawata

4月より教授としての本来の業務に戻り、学生・研修医の教育、診療、臨床研究と、以前と変わらぬ多忙な毎日を送っています。

新研修医の方々と一緒に勉強を始めました。2ヶ月と言う短期間のローテートで、最初はかなり緊張しましたが、多くの研修医の先生方は極めてまじめで、臨床に対するcuriosityと意欲を強く感じ、嬉しく思っています。ベットサイド、クラークシップ、新研修医と病棟は極めて緊張をしいられています。

助手、医員の先生方およびコメディカルの方へのしわ寄せがきており、これからの九大病院を担う中間層の先生方にincentiveのある九大病院の魅力を如何に構築するかが重要になると思います。



九州大学病院の神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉の疾患を扱う分野として1964年に我が国で初めて「神経内科」という独立診療科として開設されました。対象疾患は、脳卒中、痴呆、頭痛、めまい、パーキンソン病、てんかん、末梢神経障害など比較的多くみられる疾患から、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋炎など、少ない故に診断のつきにくい疾患まで多岐にわたっています。頭痛、物忘れ、めまい、手足の脱力・やせ・しびれ・痛み・ふるえ、歩行困難、痙攣や意識消失などの症状が出た時に受診してください。神経内科では患者さんを頭の上から足の先まで診察して、診断をつけていきます。

ある患者さんの場合、足の力が段々と入りにくくなり、やがて歩行ができなくなりましたが、診断がつかず、九大の神経内科を何百キロも離れたところから受診されました。入院後、同じような症状をもつ患者さんを診てきた多くの神経内科専門医の診察により、アトピーに関連した脊髄炎という診断に至りました。この患者さんは適切な治療により症状の軽快を得、重症神経難病ネットワークの病院情報によって、リハビリ施設を探して、今も治療とリハビリに励んでおられます。

神経病、そして難病という印象がありますが、この10年を振り返ってみても、新しく効果的な治療法が出てきています。脳卒中や頭痛、めまいなどの疾患から、難病といわれる疾患まで、ご相談ください。

(神経内科 TEL: 642-5349)



神経内科長  
吉良 潤一 教授

## ●●●熱中症●●●

熱中症は、高温多湿の環境下での運動負荷等がきっかけとなり、身体の熱産生が著しく増大することによって発症します。熱けいれん、熱疲労および熱射病に分類されますが、前二者では体温上昇はなく、患者を涼しい所へ移せば比較的早期に回復します。それに対し熱射病とは、体温が急激に上昇し身体の体温調節機構が破綻を来した重症の疾患で、(1)ひどい発汗後に汗が止まる(2)ふらつく(3)無口になる(4)息が荒くなる(5)ろれつが廻らなくなる(6)うずくまるなどの症状が現れ、昏睡状態に陥ります。時に低酸素血症、骨格筋融解、脳浮腫、肝障害、心筋障害、腎障害などの重篤な合併症が見られ、そうなった場合の致死率は20~50%に至ります。

熱中症発生の現場に出会ったら、すぐに患者を日陰などの涼しい場所に移し、衣服をゆるめ、うちわなどで送風したり、冷たいタオル等で冷やしてやるようにします。また水分、塩分をスポーツドリンクなどで補給させます。可能であれば、冷房が効いた涼しい屋内に移します。もし患者の消耗がひどかったり、体温が上昇し続けたり、意識状態が回復しないようであれば、熱射病を疑い緊急に病院へ搬送するようにします。なお熱射病のうち、特に太陽に曝された状況での発症を日射病という場合があります。

この季節、熱中症が発生しやすくなっています。炎天下では帽子や日傘を着用し、急激な運動や労働は出来るだけ避け、休息や水分補給を心掛けることが予防につながります。熱射病を疑う患者がいまいたら、すぐに救急部までご連絡下さい。

救急・集中治療部 (TEL 092-642-5871) 財津昭憲 奥山稔朗



ご意見

筋無力症を患い、神経内科の方に通院しております。体調が悪く、ゆっくり院内を歩いていたら、病院のスタッフ(女性)の方が右斜め後ろから、私の直前をいきなり横切って行かれ、びっくりしました。

対 応

大変申し訳ありませんでした。病院職員として最低のモラルが守られていないと感じます。その者の特定は出来ませんでした。今後病院スタッフ一同注意していきます。

ご意見

退院患者はそれなりに、退院後の予定があります。退院間際まで血糖検査等を行うのはどうにかありませんか。

対 応

ご本人に詳細を確認し、不手際を謝罪しました。入院中の主治医、指導医にも退院時の配慮が足りなかった事を指摘し、反省を促しました。

ご意見

遠方から眼科に入院し、とても不安でしたが、スタッフの方々が優しく接してくれて良かったです。特に主治医の先生は病気の不安を取り除いてくれて感謝しております。

対 応

お褒めのお言葉をいただき、ありがとうございます。これからもよりよい医療のため、努力してまいります。

ご意見

自動支払い機を設置して欲しい。

対 応

導入について検討していますが、多額の経費が必要でありますので、時期については未定です。

## 「愛の図書室ボランティア」の感想文

萱野 征子

九大病院南棟新築に伴い「愛の図書室」が東病棟2階薬剂部前へ移転しました。

明るく広い所でゆったりと本を選んでもいただけるようになり、利用して下さる方も一挙に増え嬉しいことです。

図書室では、本の貸出しと共に録音図書も貸出しもしています。これは「テープに録音させて下さい」と著者にお願ひし、お許しがいただけた本をボランティアが心をこめて朗読したものです。小説・随筆・童話等多岐にわたって準備しています。

毎週火曜日11時～14時30分まで図書室が利用できます。

入院中の方、通院中の方のお一人でも多くの方に本やテープに接していただける事が私達の願ひです。

それでは火曜日「愛の図書室」でお待ちしております。



●「愛の図書室」ボランティア活動風景

黒瀬 幸子

4年前、病院案内のビデオで愛の図書室を知り、月1～2回、本やテープの貸出しのボランティアをしています。

充実感をもって帰宅することが次へのエネルギー源となっています。

利用者の方々や仲間とのふれあいから生まれるものではないでしょうか。

この図書室は16年目を迎えますが、多くの先輩達の継続的な努力のおかげで活動が認められ、楽しい所となっています。さらに病院関係者の方々の理

解と援助に支えられて、昨年より部屋も広くなりました。窓口の方の明るい笑顔とこの会の代表の気配りに感謝したいと思います。

最後になりましたが、「愛の図書室」が入院生活の気晴らしの場として少しでも役立つことを願っています。

歯科インプラントという言葉を目にしたことがありますか？歯を失った場合、残った歯や顎の骨、粘膜を支えとした、ブリッジや義歯といった治療が従来より行われてきました。それに対して、チタン製の人工歯根を歯を失った部分の骨に埋入し、それを支えとして固定性あるいは、取り外しのできる義歯を装着する方法が近年用いられるようになってきました。これがインプラント治療です。

従来の治療が、歯がなくなると二度と再生しないという前提にたっていたのに対し、インプラント治療は人工物で歯を再生する治療法とも言えます。咀嚼能力の飛躍的な向上と、違和感の大幅な軽減を得ることのできる画期的な方法です。しかしながら、外科手術が必要であり、健康状態や骨の状態によっては、適応が困難な場合もあります。このような場合でも、多数の関連科と連携し最新の治療方法を駆使して、できるだけ多くの患者様がインプラント治療を受けられるように努力しています。本院でのインプラントの治療成績は、部位や条件によっても異なりますが、5年で約95パーセントの方が、支障のない状況です。なお、インプラント治療は保険診療が適用されず、私費診療となりますので、この点もご了承ください。

安全で、よりよい治療を目指しておりますので、インプラントをご希望される方は是非一度ご来院ください。



義歯科 咬合治療科 インプラント外来 (TEL 092-642-6440) 松下 恭之

歯科  
医療  
センター

歯科  
インプラント

皆さん、九大病院が別府にもあることは御存知ですか？昭和6年、湯の町別府に心臓の田原結節で有名な田原淳先生を初代所長に『九州大学温泉治療学研究所附属病院』が誕生しました。古くから『温研』の呼称で親しまれています。昭和57年には、九州大学生体防御医学研究所附属病院、平成15年には3病院統合により、『九州大学病院別府先進医療センター』と改組しました。別府先進医療センターでは、免疫・血液・代謝内科、循環・呼吸・老年病内科、外科、産婦人科の診療科がありますが、外科診療科では、主に消化器と乳腺の悪性腫瘍疾患を対象に診療を行っています。特に、食道癌と肝臓癌に力を入れ、内視鏡手術を用いた手術の低侵襲化、遺伝子レベルのデータをもとにした最適治療の実施を図っています。乳癌では、腫瘍だけを切除して乳房を残し、傷跡を全く残さない工夫をしているために、御家族から『本当に手術したの？』と聞かれる方も多いようです。

また、当科では自分自身の免疫力を用いて癌細胞だけを殺し、正常の細胞には傷をつけない「癌特異的免疫療法」という治療を世界で初めて消化器癌患者に実施しています。新聞・TVなどで発表されたこともあり、全国的に大きな反響を呼んでいます。間もなく高度先進医療の認可が受けられる予定で、現在はその適応をより多くの患者さんに広げるための研究を行っています。詳しくは九州大学病院別府医療センターのホームページを御覧ください。http://www.mib-beppu.kyushu-u.ac.jp/MIB\_hosp/byouinn.html (外科専門診療科 電話：0977-27-1650)



外科専門診療科  
森 正樹 教授

## 外来採血室等について

本院の長年の懸案事項でありました「外来採血室」が7月1日から運用を開始しております。患者さんには採血のために移動をお願いすることになりますが、採血室には専任の看護師を配置しており、経験も豊かで患者さんには喜んでいただけるものと考えています。また、病棟では部分的ではありますが、看護師による注射も始めています。まだ充分慣れていない看護師もいるかと思いますが、研修を重ねて患者さんに信頼されるよう努力して参りますので、温かい心で接して下さいますよう、お願いいたします。

## 外来診療日一覧

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。  
(市外局番は「092」です)

階	科名(電話番号)	初診日	再診日	階	科名(電話番号)	初診日	再診日	診療施設等	電話番号
1	総合診療部 (642-5300)	月～金	月～金	1	第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金	救急即受付	642-5873
1	内科(初診) (642-5300)	月～金	月～金	1	整形外科 (642-5504)	月・水・金	金	時間外受付	642-5163
2	内科(再来) (642-5302)			2	脳神経外科 (642-5533)	月・水・(金)	月・水・(金)	総合外来受付	642-5138
1	臨床遺伝医療部 (642-5421)	月～金	月～金	2	心臓外科 (642-5565)	月・(水・木)	水・木	入院受付	642-5149
1	先端分子細胞治療科 (642-5996)	月～金	月～金	2	小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金	公費申請受付	642-5185
2	心療内科 (642-5335)	月・木	(火)(水)(金)	2	皮膚科 (642-5596)	月・水・金	(火)(木)	地域医療連携室	642-5165
2	神経内科 (642-5349)	(火)(木)(金)	(月)(水)	2	泌尿器科 (642-5615)	月～金	月・水・金	支払い窓口	642-5169
2	循環器内科 (642-5371)	月～木	月・水	1	精神科神経科 (642-5640)	(火)・(木)	(月)(水)(金)	リハビリ受付	642-5862
2	呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月・火 水・金	1	眼科 (642-5660)	月・水・金	(月)～(金)	医療相談	642-5914
2	産科婦人科 (642-5409)	火・木	月～金	2	耳鼻咽喉科 (642-5681)	(火)・(木)	(月)(水)(金)		
2	産産母子センター (642-5900)	火・木	月～金	1	放射線科 (642-5705)	月・水・金	月～金		
2	小児科 (642-5430)	月～金	月～金	2	麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金		
1	先端医学診療科 (642-5993)	月～金	月～金	別館	歯科医療センター (642-6268)	月～金	月～金		
1	第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金						

※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日  
土曜日、日曜日、祝日、  
年末年始(12/29～1/3)
- 受付時間(窓口)  
8:30～11:00  
自動再来受付機  
8:15～11:00
- 外来玄関開閉時間  
7:00～18:00

- 注
- 予約がある場合はこの限りではありません。
  - 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

(代表) 092-641-1151

〒812-8582  
福岡市東区馬出3丁目1番1号



病院にお越しの際は保険証をお忘れなく！

※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができません。

ご意見・ご感想を電子メール(ibs\_koho@jimu.kyushu-u.ac.jp)  
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております！